

## 論文要旨及び学位論文審査結果要旨

保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程 作業療法学分野 学籍番号：2176005 氏 名：花田 恵介	学位授与年月日	令和2年3月12日
	博士論文受理年月日	令和元年12月3日
	論文審査終了年月日	令和2年2月18日
博士論文名	脳卒中後上肢麻痺の客観的な活動量測定手法の開発とリハビリテーション応用	
論 文 要 旨	<p>脳卒中患者に対する日常生活での麻痺手の使用頻度を向上させる方法として、リストバンド型活動量計を用いた行動心理学的介入を検討するため、以下の二つの研究を行った。</p> <p>① 活動量計を用いた麻痺側上肢活動の客観的な計測手法について検討した。脳卒中患者37名の両手首に、活動量計 (Actigraph GT9X) を装着し、24時間内で麻痺手が非麻痺手に比べてどの程度動いているかを種々の方法で算出した。また、その値を既存の運動機能評価に照らし合わせて妥当性を検証した。</p> <p>② 失語症のある片麻痺患者1例および外来通院の片麻痺患者1例を対象に、その計測手法を用いた行動心理学的介入を行った。麻痺側上肢に対する課題指向型トレーニングと並行して、活動量計を用いて上肢活動量を継続的にモニターし、患者にフィードバックすることで日常生活における麻痺手使用を促した。その結果、いずれの症例においても麻痺手の上肢機能および使用頻度が改善した。</p>	
学 位 論 文 審 査 結 果 要 旨	<p>主査 作業療法学分野教授 藤井浩美 副査 作業療法学分野教授 佐竹真次、副査 看護学分野教授 安保寛明</p> <p>脳卒中患者に日常生活で麻痺手の使用頻度を向上させるために、リストバンド型活動量計を用いた行動心理学的介入を研究テーマに掲げた博士論文であった。その前提として、①活動量計を用いた麻痺側上肢活動の客観的な計測手法についての検討を行っており、その成果をもとに②失語症のある片麻痺患者1例および外来通院の片麻痺患者1例を対象に行動心理学的介入を行った。①の研究は、脳卒中患者37名の両手首に、活動量計 (Actigraph Link GT9X) を装着し、24時間内で麻痺手が非麻痺手に比べてどの程度動いているかを種々の方法で算出した。また、その値を既存の運動機能評価に照らし合わせて妥当性を検証した。②の研究は、麻痺側上肢に対する課題指向型トレーニングと並行して、活動量計を用いて上肢活動量を継続的にモニターし、患者にフィードバックすることで日常生活における麻痺手使用を促した。その結果、いずれの症例においても麻痺手の上肢機能および使用頻度が改善したとする報告であった。</p> <p>これらの研究の新規性と有効性は、論文題目にもある通り、客観的活動量測定手法の開発とそのリハビリテーションへの応用である。これらの知見は、根拠に基づく作業療法実践 (Evidence-based occupational therapy practice) に有用であり、博士論文に値する。</p>	